

環境配慮個票

事業名	農地整備事業（経営体育成型）	地区名	入田	受益面積	41.0ha
関係市町村名	四万十市	予定工期	平成24年度～平成29年度		
総事業費	900.000千円	H26年度以降事業量	830.000千円		
総事業量	区画整理工 41.0ha 道路工 6.0km 用水路工 7.2km 排水路工 8.3km	H26年度以降事業量	区画整理工 41.0ha 道路工 6.0km 用水路工 7.2km 排水路工 8.3km		
マスタープランの区分	環境配慮区域	自然公園等の指定	無		
既存資料による希少種の情報の有無	H24年度及びH25年度 環境調査資料				

周辺の環境

四万十市は、太平洋型の温暖気候ですが、三方が山に囲まれていることから気温はやや低く、西土佐地域などの山間部を中心に積雪が見られます。年平均気温は16～17℃、年降水量は全域で2,600mmを越え、多いところでは3,000mmに達します。

入田地区は四万十川を挟んで市街地に隣接しており、地区下流側においても宅地化が進行しています。また、事業区域は河川と山林に挟まれており、河川水位が上昇した場合は山林から流出する降雨が排水されず内水により湛水被害が発生しています。

地区の環境の特性

入田地区は四万十川の右岸堤防に接し、四万十川水系井ノ上川と久礼場川沿いに展開する農地です。地形勾配は1/200程度と緩やかであり、主に水田での稲作が行われていますが、一部には耕作放棄地や湿地状態の場所も存在します。地区内には2つの池と小河川があり、水生生物の生息場所となっています。

本地区で実施した環境調査では、植物388種（重要種11種）、昆虫143種（重要種6種）、貝類1種、甲殻類3種、両生類2種（2種とも重要種）、爬虫類1種（重要種）及び魚類5種（重要種2種）が確認されています。

配慮すべき事項

- ①水田・湿地(耕作放棄地)に生育する植物重要種への配慮
- ②水田と用排水路に生息する水生生物重要種への配慮
- ③工事区域及び下流域の環境への配慮
- ④小動物等の移動ルートへの配慮

配慮方針

- ①植物重要種が生育する表土は、工事による移動を極力制限して重要種の生育地及び種子の保全に努める。また、工事区域内で生育する特定外来生物（オオフサモ）を除去する。
- ②工事中には谷部の小河川及び2つの池への避難が可能であることから、ビオトープ等の設置は予定していない。
- ③降雨時施工をできる限り回避することなどで下流域への濁水流出を抑制していく。
- ④排水路は転落した小動物が脱出できるような構造を検討する。